

# 【緑地保全マスタープラン】



#### 緑地保全計画

#### 緑地保全計画の位置づけと概要

藤森キャンパスは、深草丘陵西側の緩傾斜原(深草野と呼ばれる砂礫層)に位置し、敷地面積140,724㎡、構内標高差 約12mで東高西低のなだらかな斜面である。ここは、第二次世界大戦終了までは軍用地で歩兵第九聯隊の営舎があった。 戦後、合衆国駐留軍に接収された後、昭和32年に本学の前身の京都学芸大学が当地に移転し現在に至っている。学内に 見られるクスノキやイチョウなどの大木は戦前からの樹木と思われるが、その他にも多くの樹木が繁茂し、緑豊かな構内と なっている。また、越後屋敷地区にある第二学舎は、学生寮・国際交流会館・環境教育実践センターからなる静かなキャンパ スである。ここもかつては軍用地であり、第十六師団輜重部隊跡地とされている。現在は、環境教育実践センターの農場(栽 培学習園)や森(樹木見本園・環境共生園)などが広がる緑豊かな環境にある。

大学構内に生育する多様な植物は、場所の環境に応じた植物を形成していることから、教育・研究の対象として利用され るのみならず、学生・教職員の諸活動の背景として大学環境の中核となる重要なものである。これらは、本学に在籍した教職 員の一方ならぬ努力により、植栽及び保全が続けられた結果の賜物である。我々はこの宝を受け継ぎ、次代に渡していかな ければならない。そのための指針として、大学の緑を調和のとれた一つの景観としてまとめ、樹木の将来像を視野に入れた 京都教育大学緑地保全計画を設ける。

#### 基本方針

●緑地環境の位置づけ

・京都教育大学の緑地環境は、本学全構成員の生活・教育環境の中核であり、個々の樹木が本来持つ自然な樹形を可能 な限り尊重しつつ、構内全域が有機的に連関したひとつの森として機能するよう保全されている。また本緑地環境は上 記のような学内的意義の達成を通じて、隣接社寺等とともに、移り変わる地域景観の歴史的連続性を保証する公共的な 自然一文化的景観の形成を目指すものである。

●緑地環境の維持管理

- ・個々の樹木が本来持つ自然な樹形を尊重しつつ、自然の美しさと快適さを保つ。
- ・手入れは「透かし」をもって行うことを原則とし、生垣や植え込みに関しても「刈り込み」は極力避ける。
- ・下草に関しても一律な刈り取りは行わず、それぞれの場所の必要性に応じて対応する。
- ・交通、照明等への支障を回避するための伐採や整枝は樹木等の保全を優先し、実施する場合も必要最小限にとどめる よう充分に配慮する。
- ・枯れ枝やバランスを失った樹木に関しては、その落下や倒木に先んじて対応する。
- ・樹木下等の道路外の落葉類は、原則としてその場の土に還す。
- ・長期的な観点から、建物に近接する等の支障が危惧される樹木は、景観や機能を損なわないように適した樹種に 置き替えていく。
- ・将来像を保証する策として、次の代の苗木を育成し準備しておく。

●管理組織

- ・問題に関する判断は企画調整室の所掌とする。
- ・企画調整室に緑地保全計画専門委員会を置き、専門的知識を持つ教職員を委員として当てる。
- ・剪定、伐採、施工等に関しては企画調整室の緑地計画専門委員会で審議し、企画調整室の判断のもと施設課が実施する。

#### 緑の方針総論

京都教育大学キャンパス内の緑環境の今後の維持管理及び整備について、全ブロックに共通して指摘できる問題点をま とめる。明確な展望のもとに、およそ20年にわたって極端な切り戻しや刈り込みを避ける管理を優先してきた結果、構内の 樹木は、ようやく以前の伸びやかな姿をとり戻しはじめ、隣接する藤森神社の社寺林とともに一帯の緑地環境と歴史的景観 の中核を担うに相応しい姿を形成しつつある。しかしながら現在では、高木化した樹木の枯枝落下のリスクが高まっているこ とから、樹木の維持管理においては、通路の確保等と並んで枯枝の除去が優先されるべき課題となっている。

また構内のいくつかの箇所に対策を要する薄暗い籔が繁茂しているが、その原因の大半はシュロ、トウネズミモチ、クズ(と ころによりクズ以外のツル植物)の過剰な繁殖にある。これらの植物は非常に繁殖力旺盛で強健であるため、基本的には除 伐及び抜根の対象にするのが適当ではないかと考えられる。(根絶してもいずれ必ず生えてくる。)

また次代の苗を育成する観点から、新たな植栽を適切に行う必要がある。植栽はなるべく現存するものや鳥散布等によっ て新しく持ち込まれる実生を活かし、高木となる樹種は一部のものを除いて避け、場所の特性に応じて、季節感にあふれ教 育の場にふさわしい樹種を選択する。それゆえ構内全ブロックを通した樹木の維持管理及び整備の基本方針としては、これ まで通り不用な切り戻しや刈り込みを避けつつ、上に指摘した枯れ枝の除去、シュロ、トウネズミモチ、クズ等の除伐及び場 抜根といった管理業務を重視するものとする。これに適切な草刈り、通路の落ち葉掃きといった日常的な業務を組み合わせ るだけで、本キャンパスの緑環境は著しく向上するだろう。加えて将来を見据えた植栽事業を通じて、本学が周辺の緑地環 境及び歴史的景観の骨格を形づくり、この遺産を超長期的な展望にもとづいて保全していくことを緑の方針とする。 以下では植樹の方針と、各ブロックごとの現状と課題を記す。

## 各種事業全体計画

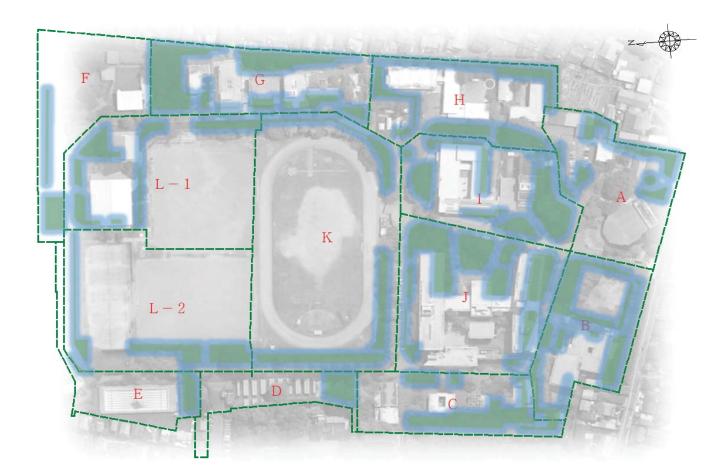
各種事業を中長期的による全体計画として、以下の内容で樹木の維持管理及び整備を事業予算を確保しながら植栽事 業を進める。

- ·高木枯枝剪定事業···每年実施。
- ・高木枯木伐採事業・・・ヒマラヤスギ、クスノキ、チャンチンモドキ等の高木枯木の伐採。
- ・干渉樹木剪定事業・・・空調室外機、外灯などの施設設備に影響を及ぼす樹木の剪定。
- ·不要樹木伐採事業・・・シュロ、トウネズミモチ、クズ等の除伐。
- ・想定高木移植事業・・・図書館横カツラ等、将来建物に影響する樹木の移植。
- ·樹木苗木植付事業···每年実施。

緑地の現状と課題(ブロック案内)

## ブロック案内

ブロックとは藤森団地の土地を建物や教育研究施設等のエリアで区切り分類したものである。



植樹の方針について(新規植栽計画)

〈現存樹種〉

現存する高木には、メタセコイア、ケヤキ、イチョウ、ヒマラヤスギ、チャンチンモドキ、トウカエデ、イロハカエデ、ゲッケイ ジュ、アオギリ、ヤマザクラ、クロマツ、リギダマツ、ダイオウショウ、シナサワグルミ、フウ、シダレヤナギ、カンレンボク、クヌ ギ、クスノキ、センダン、ムクノキ、エノキ、アラカシ、ハリエンジュ、シンジュなどがある。

- 〈場所〉
- 東側民家との境界付近
  目隠しや防音の観点から、その効果の高い樹種を選択する。また、無用なトラブルを避けるため、枝や落ち葉による被害
  を最小限に抑えることも重要なポイントとなる。
- 西門駐輪場西側の藤森神社との境界付近 大木となる樹種は避け、神社との一体感を損なわないようにする。
- プール西側の民家との境界付近
  プール使用時の防音効果も期待したい。団地の東側境界部分と同様に、枝や落ち葉による被害を最小限に抑えることも 重要である。
- 各ブロック〈整備に伴う植栽〉
  各ブロックやゾーンの具体的な整備段階で、その都度、場所や樹種を検討することが望ましい。

## 候補樹種リスト(苗木移植計画)



カワヅザクラ【A,B,J,Kなど】



イヌマキ【周辺民家との境界】



チョウシュウザクラ【 など】



ロウバイ【周辺民家との境界】



サトザクラ【 I,Jなど】



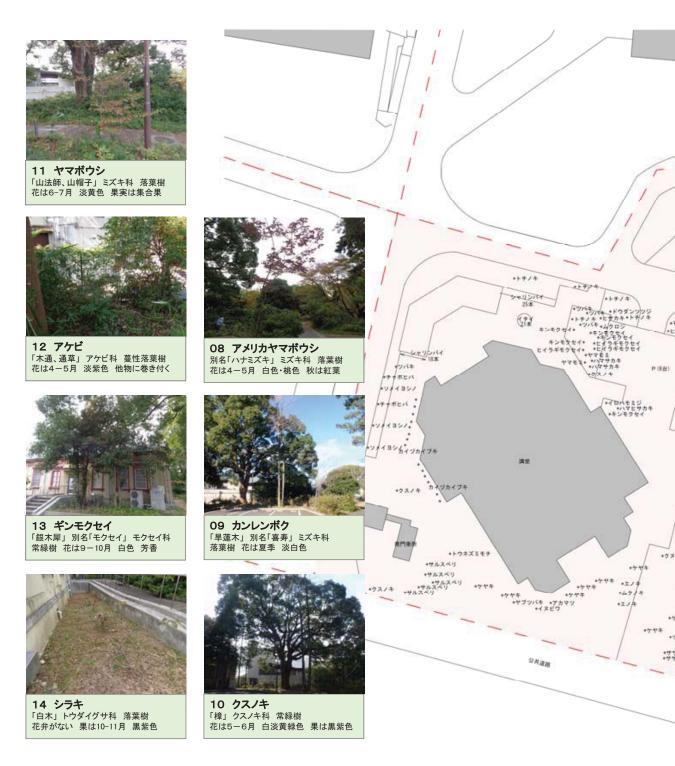
コブシ【周辺民家との境界】

## 緑地の現状と課題(A-1ブロック)

## Aブロック

#### 緑の現状と課題

本ブロック中央にはクスノキの大木が枝を広げ、また南側の境界近くにはケヤキの大木が並ぶ。教育資料館周辺や講堂の北側には多数の有用樹木が植栽されている。一方、講堂の南側は植栽樹と雑木が入り混じり、混沌とした状況である。





## 緑地の現状と課題(A-2ブロック)

## Aブロック

#### 緑の現状と課題

本ブロック中央にはクスノキの大木が枝を広げ、また南側の境界近くにはケヤキの大木が並ぶ。教育資料館周辺や講堂の北側には多数の有用樹木が植栽されている。一方、講堂の南側は植栽樹と雑木が入り混じり、混沌とした状況である。





## 緑地の現状と課題(Bブロック)

#### Bブロック

#### 緑の現状と課題

南側に並ぶケヤキの大木及び主要道路脇の植栽は、大勢の目に触れる重要な要素であるが、旧テニスコートの北・西側の茂みは鬱蒼とした状況である。枯死枝や雑木の除去等による安全性の確保と明るい雰囲気への整備が課題である。



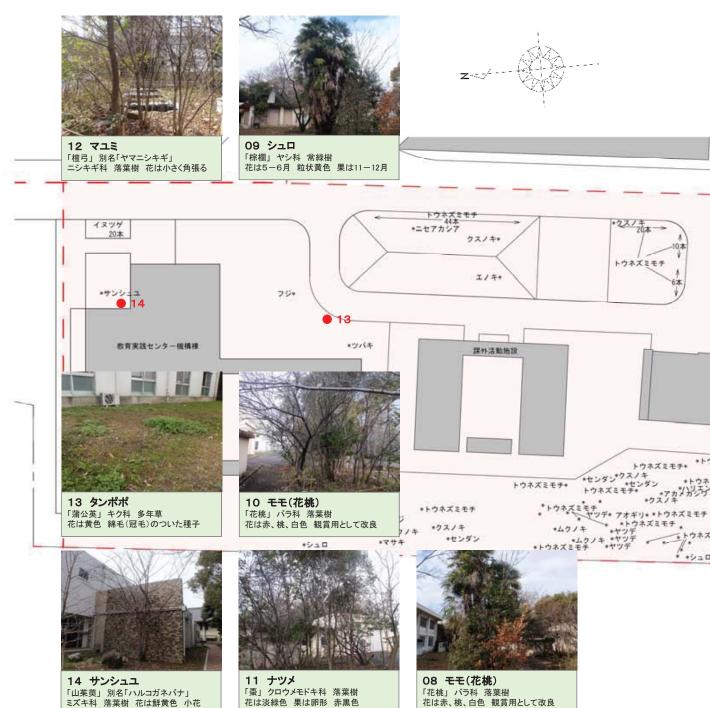


### 緑地の現状と課題(Cブロック)

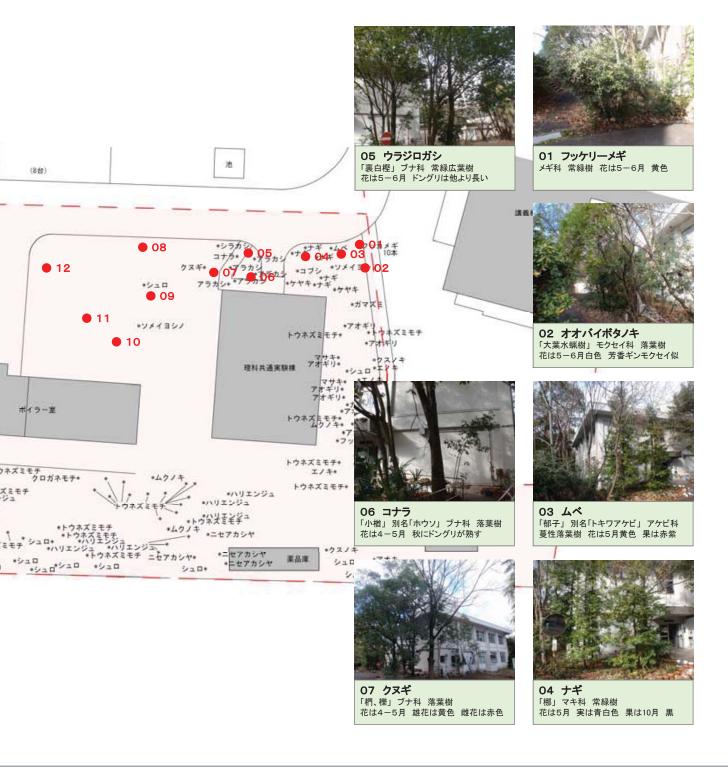
## Cブロック

#### 緑の現状と課題

理科共通実験棟前(東側)には貴重な樹木群が植栽されている。一方、その南側と藤森神社に面する一帯には雑木が鬱 蒼と繁る。野外活動施設南側の盛り土上、及びその周囲に根付いた樹木についても計画的な整備が必要である。



「山茱萸」別名「ハルコガネバナ」 ミズキ科 落葉樹 花は鮮黄色 小花



## 緑地の現状と課題(Dブロック)

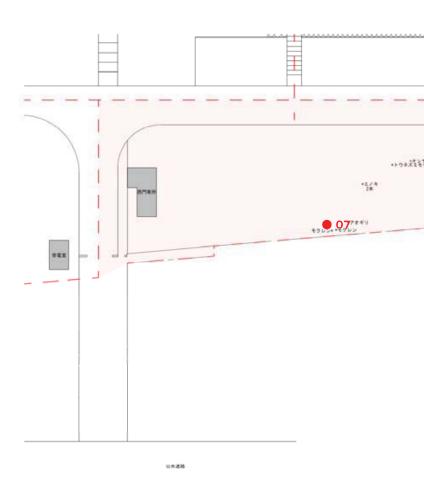
## Dブロック

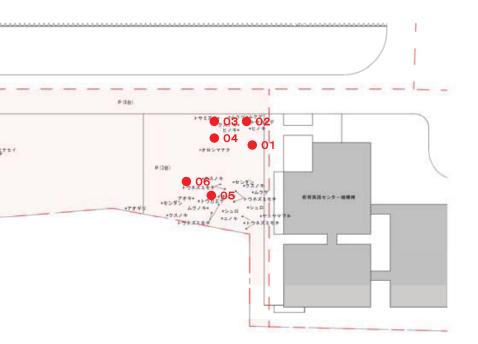
#### 緑の現状と課題

本ブロック南端に集中する樹木群はイチョウの雄株、センダン、ムクノキ、トウカエデの大木が中心となり、その東側にはト ウチク(?)の円形叢株や数種の中低木が植栽されている。この一角の明るい雰囲気への転換が課題である。

Z









01 ヒノキ 「檜」ヒノキ科 針葉樹 葉裏気孔帯がY字状 春に花粉を飛散



**02 ムクゲ** 「木槿」別名「ハチス」アオイ科 落葉樹 花は7-10月 白、紫、赤色



**03 トサミズキ** 「土佐水木」マンサク科 落葉樹 花は3-4月 淡黄色 葉より先に咲く



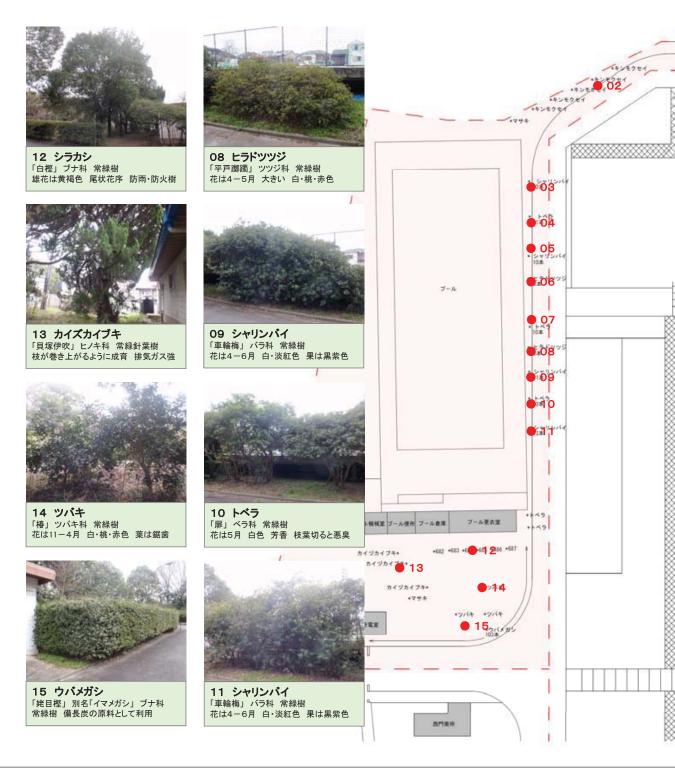
04 アオキ 「青木」アオキ科 常緑樹 花は3-5月 枝先褐色緑色 果は卵形

## 緑地の現状と課題(Eブロック)

#### Eブロック

#### 緑の現状と課題

プールの南側にはウバメガシの垣根とシラカシ群(6本)が配置され、東側にはシャリンバイ、トベラ、ヒラドツツジの小低木 が構内道路と境界を作っている。垣根に囲まれた一角の整備とプール西側の空き地の活用が課題である。





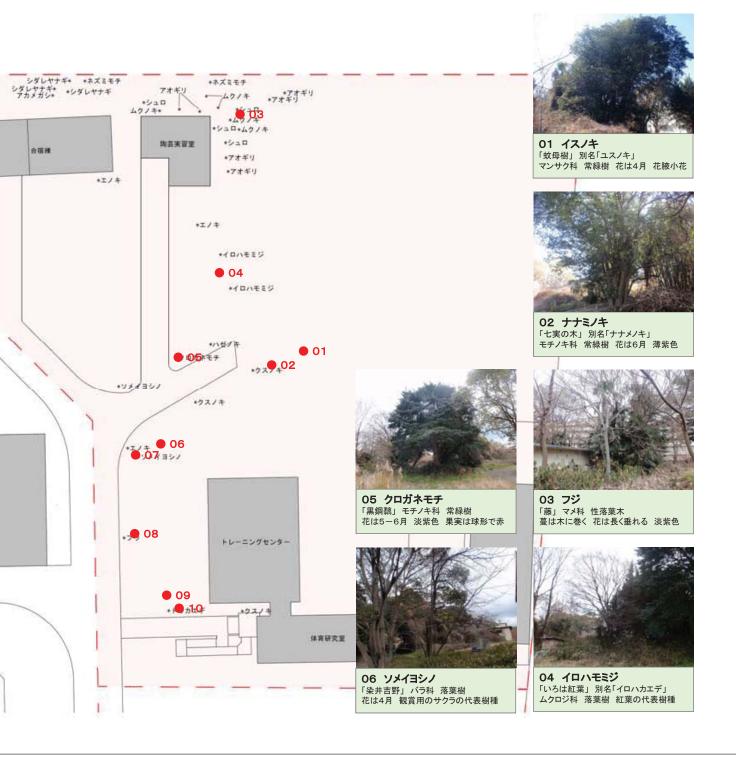
## 緑地の現状と課題(Fブロック)

## Fブロック

#### 緑の現状と課題

課外活動施設周辺や医療センターとの境界付近に若干の高木が生育するが、大きな問題はない。一方、本ブロック北東部の空き地に集積された大量の残土とトレーニングセンター・弓道場との間に広がる鬱蒼とした茂みの整備が不可欠である。





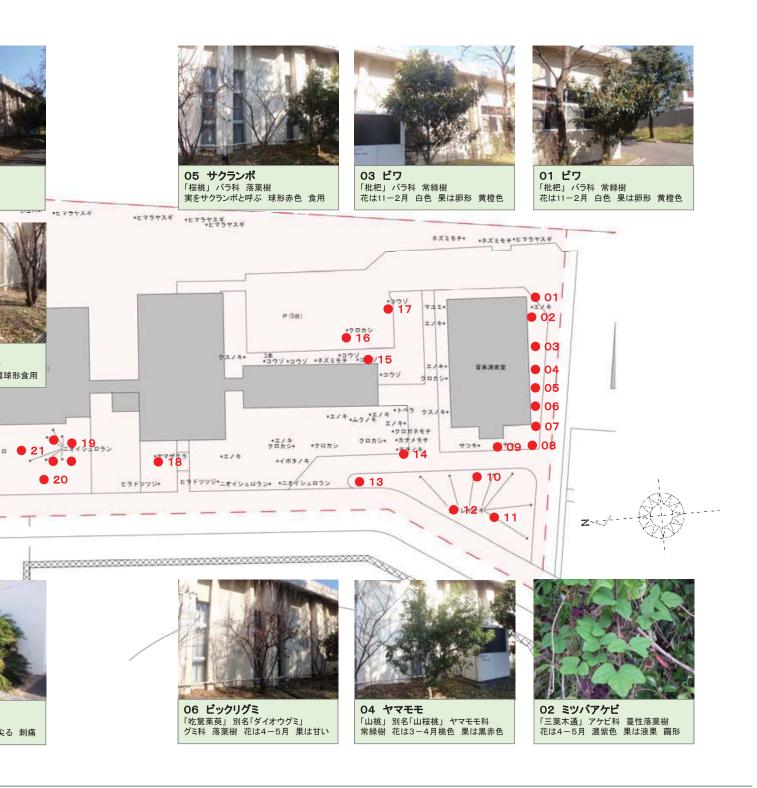
## 緑地の現状と課題(G-1ブロック)

#### Gブロック

#### 緑の現状と課題

美術基礎実習棟北側の森は多様な樹木からなる森となっている。周回道路に面した部分は整備が進んでいるが、奥まった 部分の枯死枝の除去や選別伐採などを整備する課題が必要である。また、民家との境界部分では具体的な植栽を進める 必要がある。



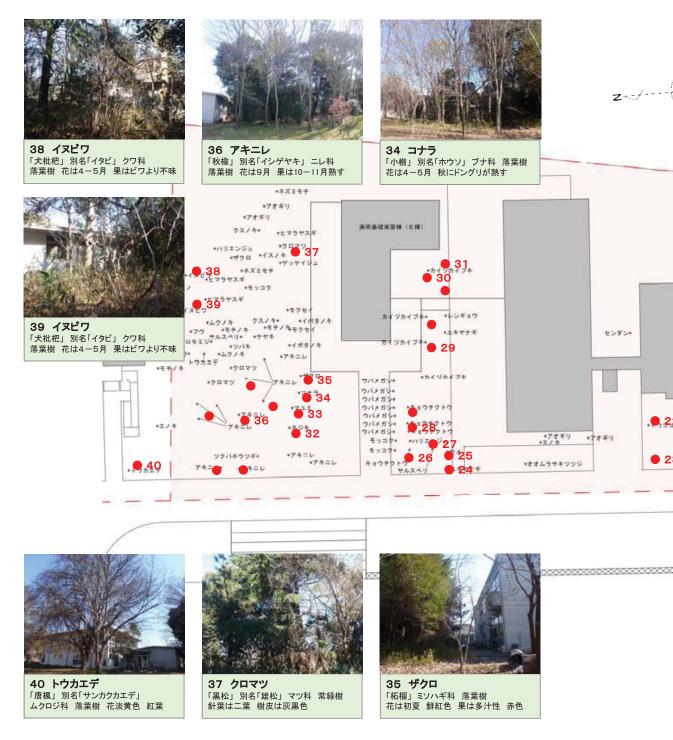


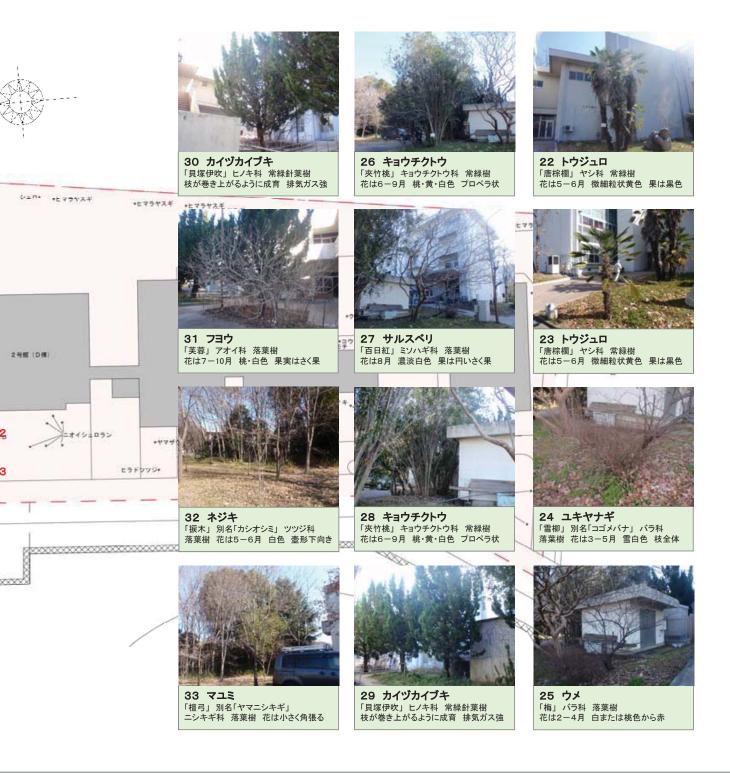
## 緑地の現状と課題(G-2ブロック)

#### Gブロック

#### 緑の現状と課題

美術基礎実習棟北側の森は多様な樹木からなる森となっている。周回道路に面した部分は整備が進んでいるが、奥まった 部分の枯死枝の除去や選別伐採などを整備する課題が必要である。また、民家との境界部分では具体的な植栽を進める 必要がある。



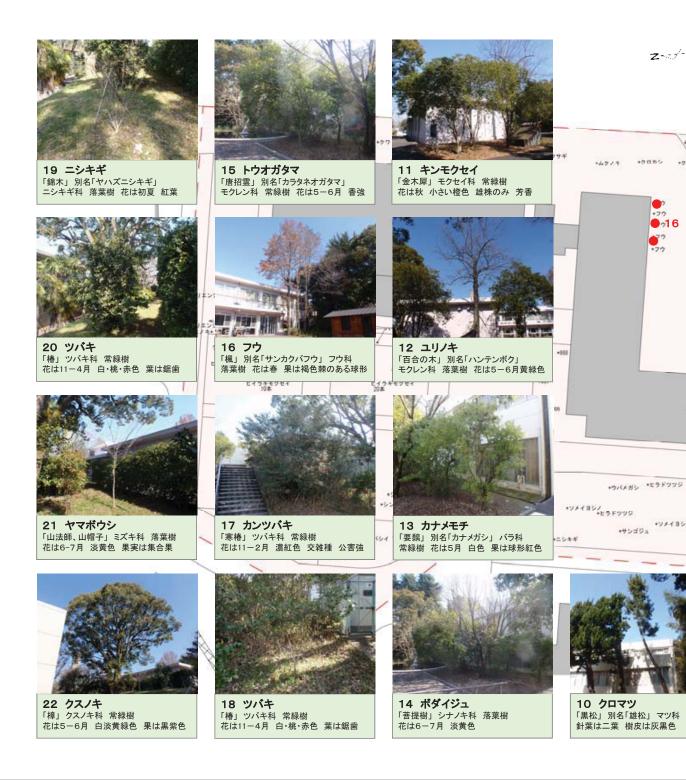


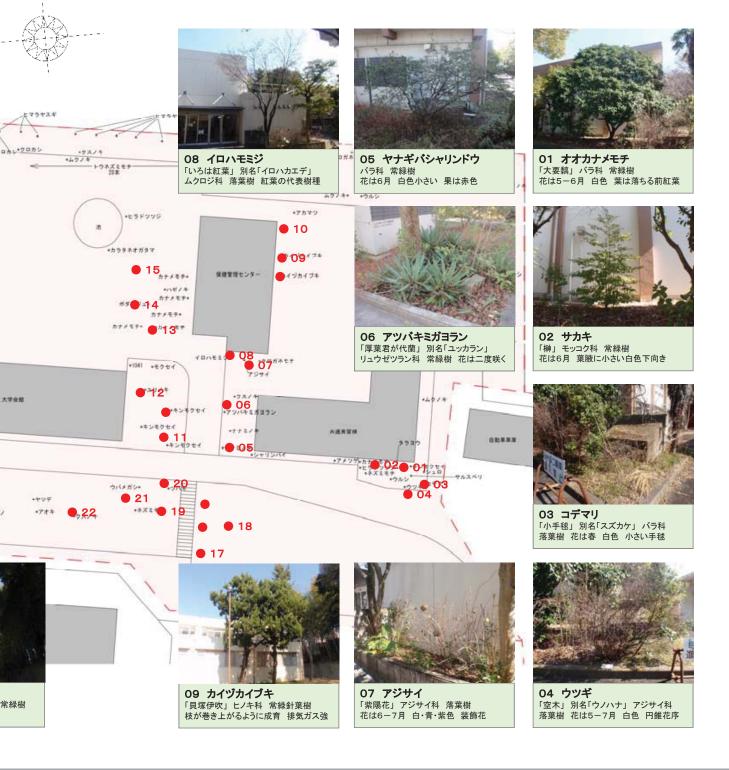
### 緑地の現状と課題(H-1ブロック)

#### Hブロック

#### 緑の現状と課題

給水塔敷地周辺、本ブロック西側の斜面一帯、民家・寺に隣接する竹林には樹種・樹高ともに多様な樹木が生育しており、 貴重な樹木も多い。場所の特性に応じた整備計画が必要である。竹林における地下茎の延伸対策は緊急の課題である。



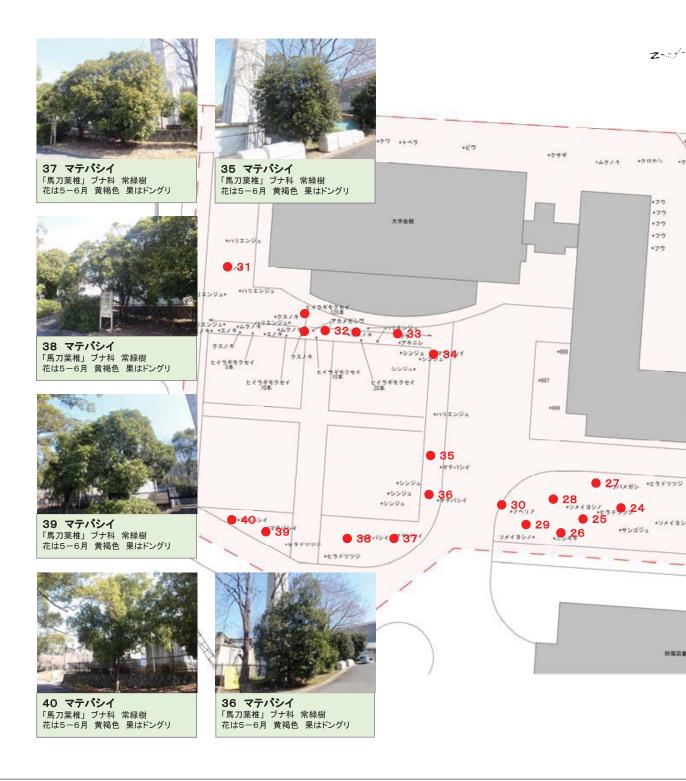


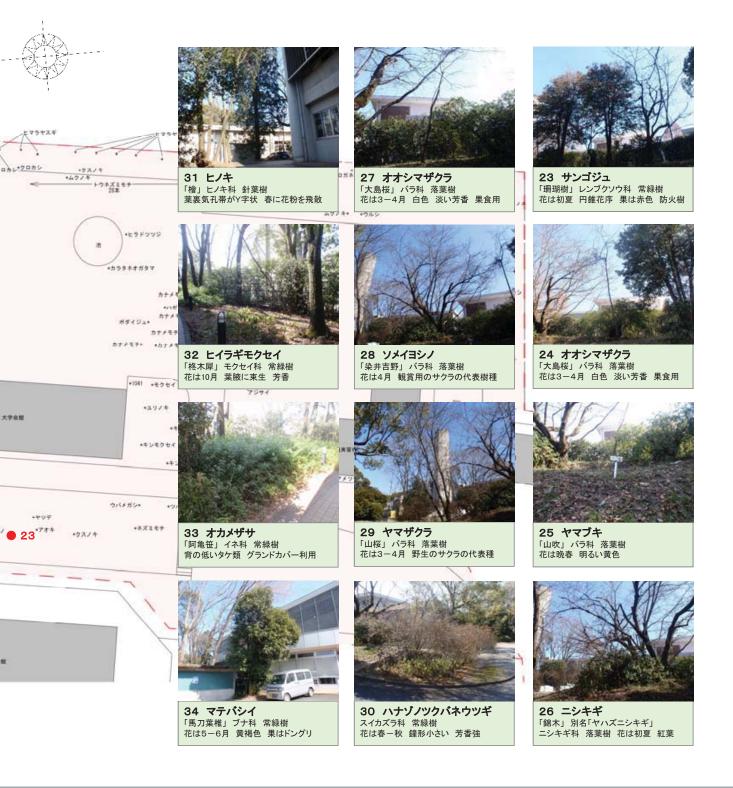
### 緑地の現状と課題(H-2ブロック)

#### Hブロック

#### 緑の現状と課題

給水塔敷地周辺、本ブロック西側の斜面一帯、民家・寺に隣接する竹林には樹種・樹高ともに多様な樹木が生育しており、 貴重な樹木も多い。場所の特性に応じた整備計画が必要である。竹林における地下茎の延伸対策は緊急の課題である。





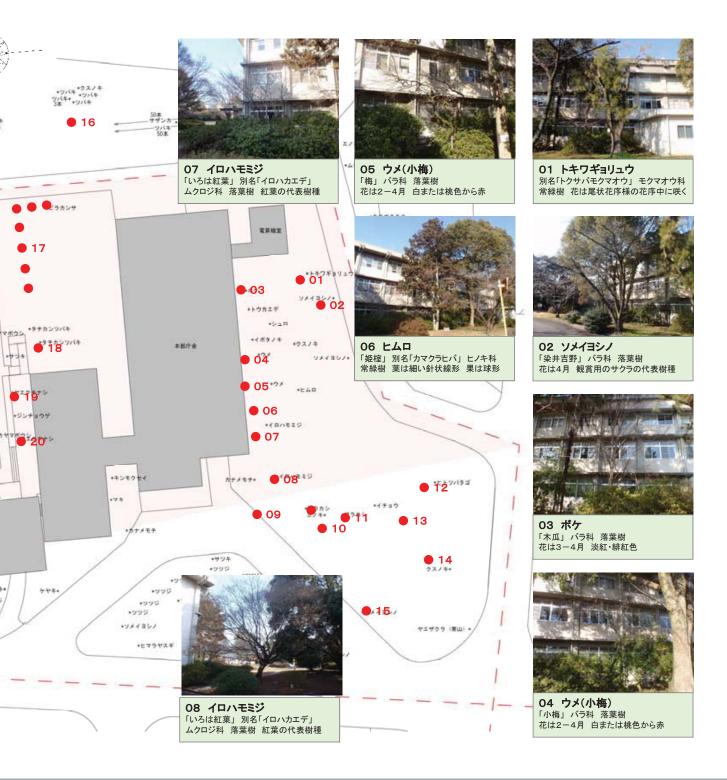
## 緑地の現状と課題(I-1ブロック)

### Iブロック

#### 緑の現状と課題

構内幹線道路に面したクスノキ、ヒマラヤスギなどの大樹の他、多種多様な植栽樹が配置されており、構内で最も主要な ブロックである。一方、衰弱したソメイヨシノやサトザクラ(関山)等の更新や日照方向を加味した管理が課題である。





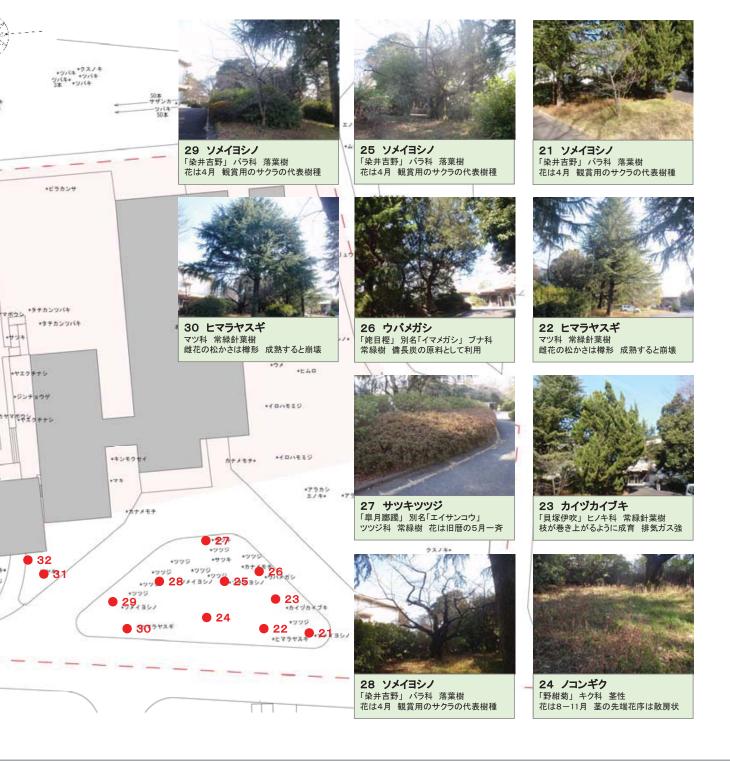
#### 緑地の現状と課題(I-2ブロック)

### Iブロック

#### 緑の現状と課題

構内幹線道路に面したクスノキ、ヒマラヤスギなどの大樹の他、多種多様な植栽樹が配置されており、構内で最も主要な ブロックである。一方、衰弱したソメイヨシノやサトザクラ(関山)等の更新や日照方向を加味した管理が課題である。



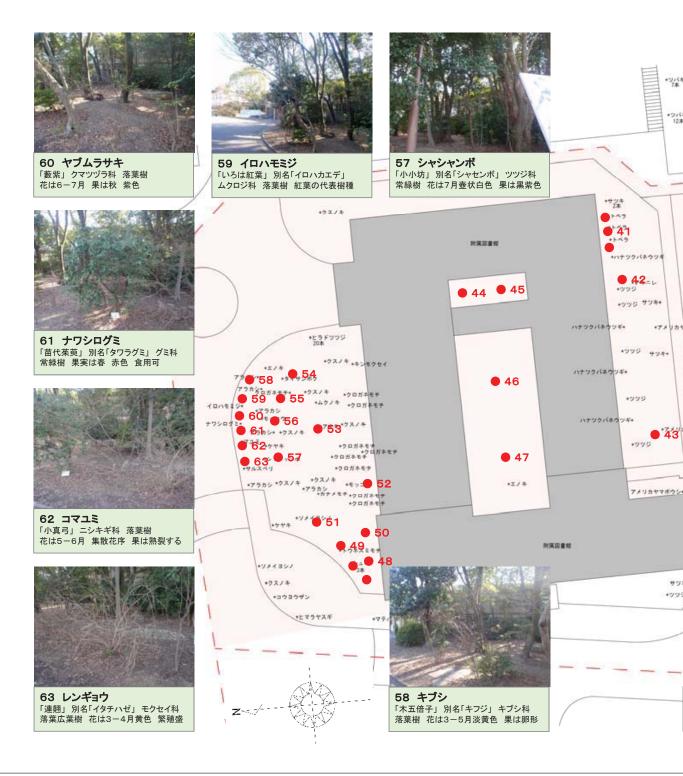


### 緑地の現状と課題(I-3ブロック)

#### Iブロック

#### 緑の現状と課題

構内幹線道路に面したクスノキ、ヒマラヤスギなどの大樹の他、多種多様な植栽樹が配置されており、構内で最も主要な ブロックである。一方、衰弱したソメイヨシノやサトザクラ(関山)等の更新や日照方向を加味した管理が課題である。





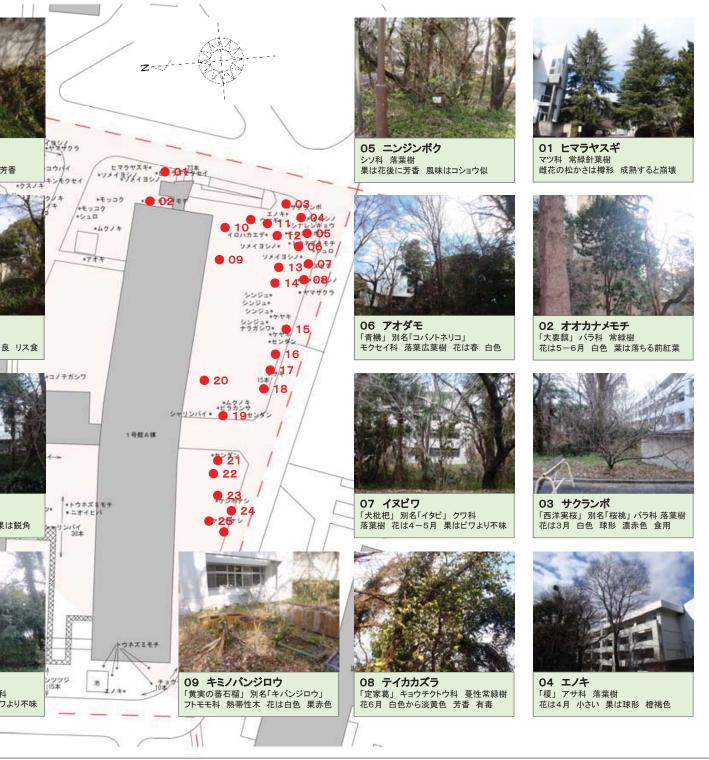
## 緑地の現状と課題(J-1ブロック)

### Jブロック

#### 緑の現状と課題

構内主要道路に囲まれた一角であり、最も多様な植栽がされているブロックでもある。チャンチンモドキやシンジュの成長 に加え、侵入木の勢力が増し、周囲の植物に悪影響を及ぼしている。C棟東側部分の整備を含めた対策が必要である。





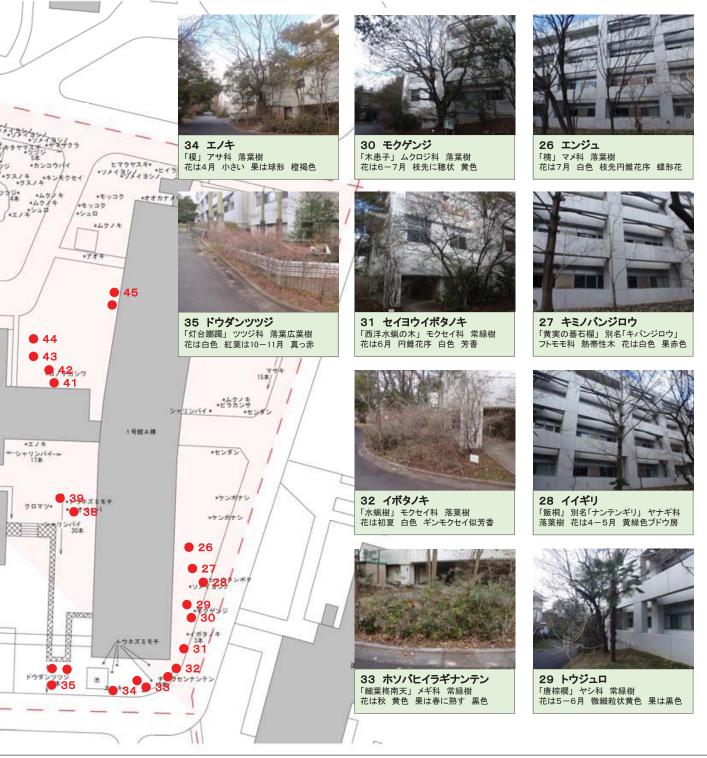
### 緑地の現状と課題(J-2ブロック)

### Jブロック

#### 緑の現状と課題

構内主要道路に囲まれた一角であり、最も多様な植栽がされているブロックでもある。チャンチンモドキやシンジュの成長 に加え、侵入木の勢力が増し、周囲の植物に悪影響を及ぼしている。C棟東側部分の整備を含めた対策が必要である。





# 京都教育大学

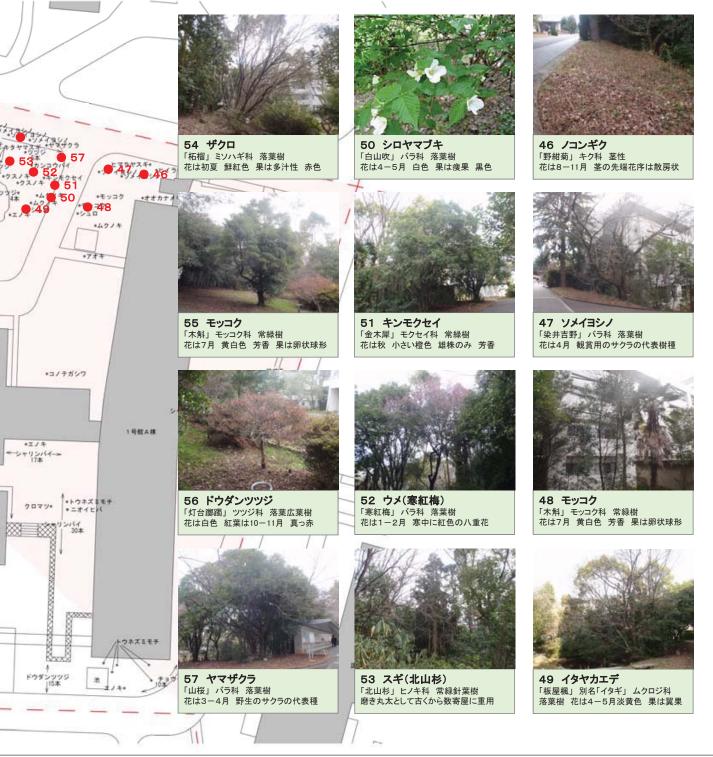
#### 緑地の現状と課題(J-3ブロック)

### Jブロック

#### 緑の現状と課題

構内主要道路に囲まれた一角であり、最も多様な植栽がされているブロックでもある。チャンチンモドキやシンジュの成長 に加え、侵入木の勢力が増し、周囲の植物に悪影響を及ぼしている。C棟東側部分の整備を含めた対策が必要である。





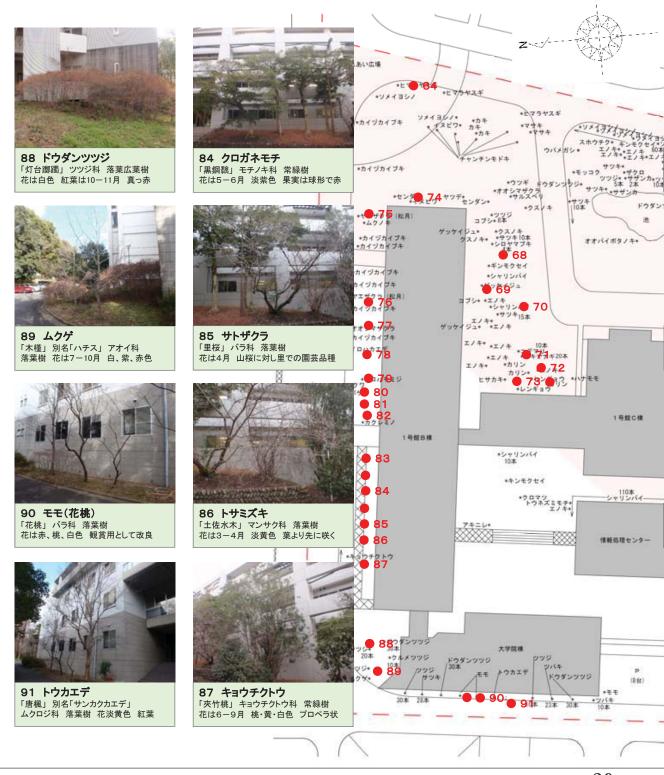
# 京都教育大学

#### 緑地の現状と課題(J-4ブロック)

## Jブロック

#### 緑の現状と課題

構内主要道路に囲まれた一角であり、最も多様な植栽がされているブロックでもある。チャンチンモドキやシンジュの成長 に加え、侵入木の勢力が増し、周囲の植物に悪影響を及ぼしている。C棟東側部分の整備を含めた対策が必要である。



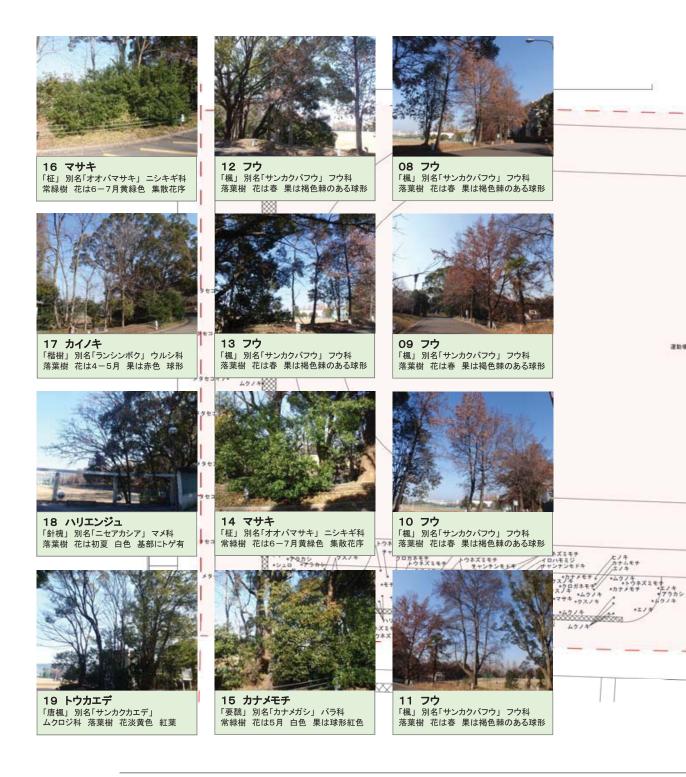


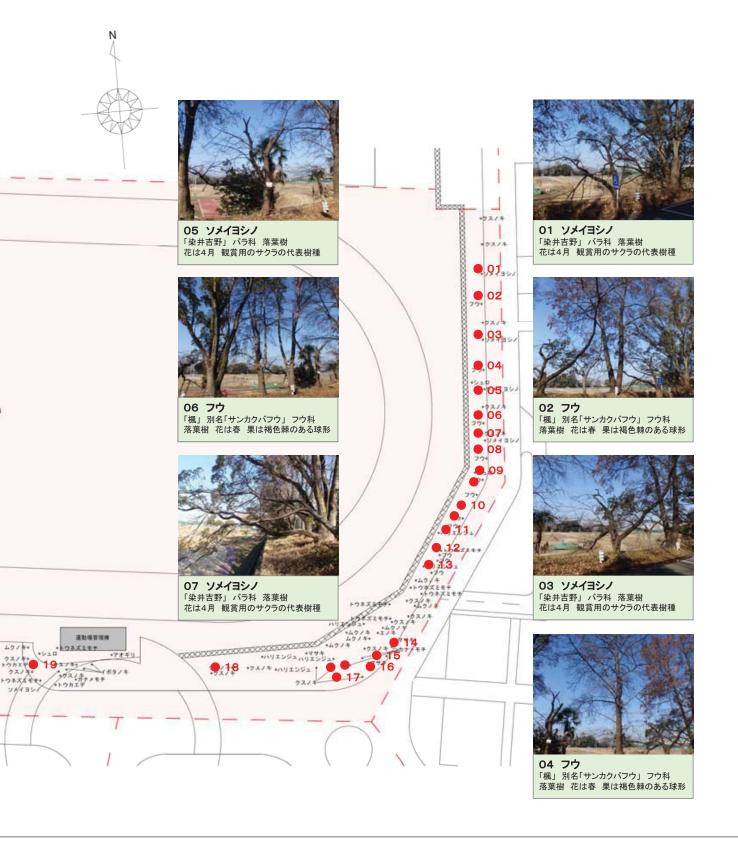
# 緑地の現状と課題(K-1ブロック)

### Kブロック

#### 緑の現状と課題

運動場東西の植栽樹(メタセコイア、フウなど)は比較的整備がなされているが、南側の雑木林は見栄えの悪い状態となっている。現存の良木を活かした整備が課題である。また南東側に自生するフジ("藤森"の地名にふさわしい)を再生したい。



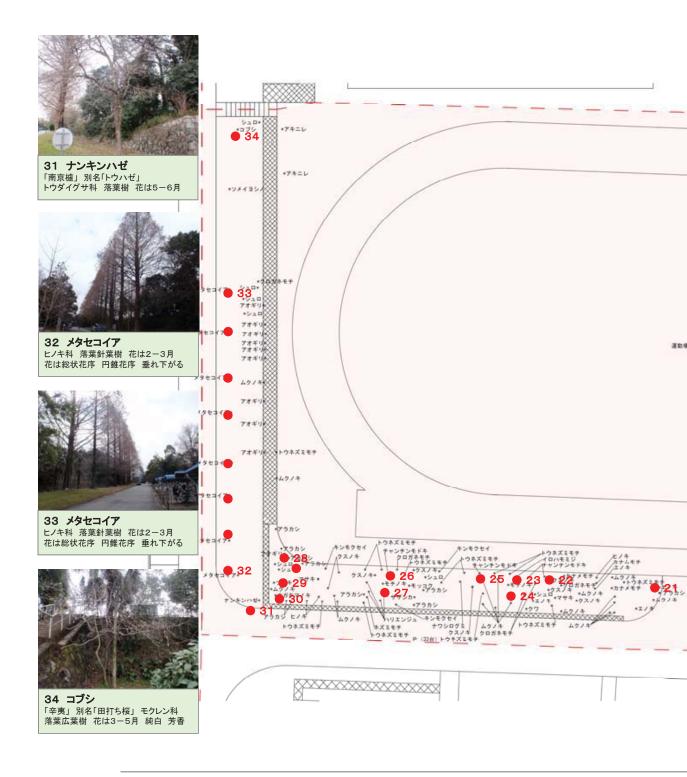


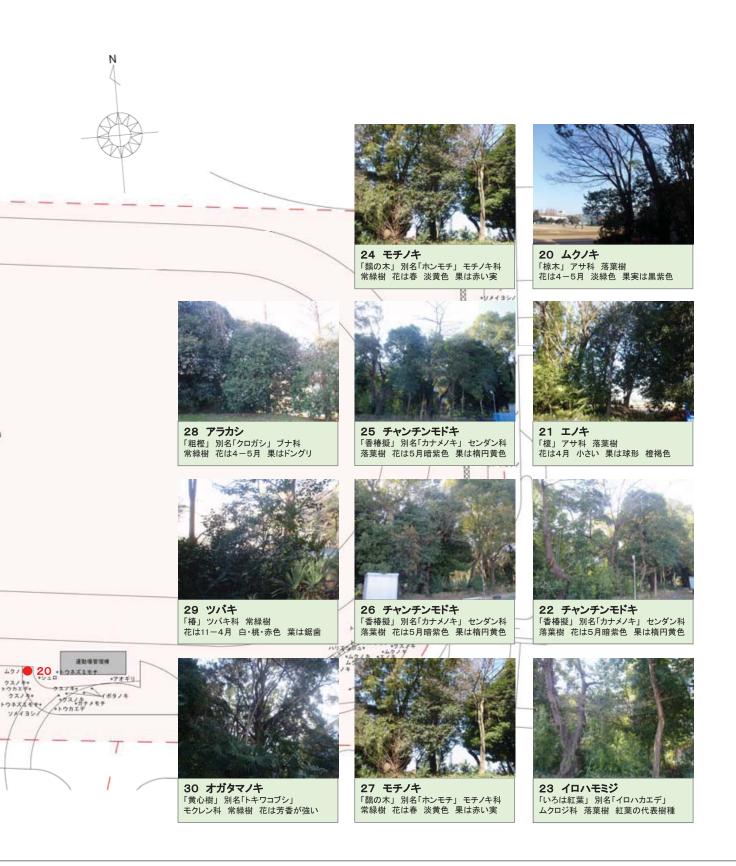
## 緑地の現状と課題(K-2ブロック)

## Kブロック

#### 緑の現状と課題

運動場東西の植栽樹(メタセコイア、フウなど)は比較的整備がなされているが、南側の雑木林は見栄えの悪い状態となっている。現存の良木を活かした整備が課題である。また南東側に自生するフジ("藤森"の地名にふさわしい)を再生したい。



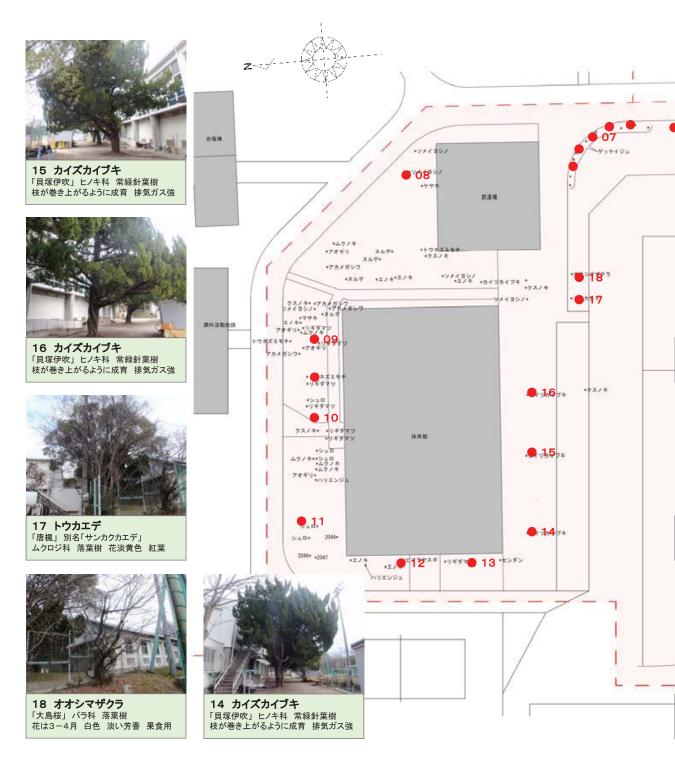


# 緑地の現状と課題(L1ブロック)

# L1ブロック

#### 緑の現状と課題

本ブロック東側の並木(フウとソメイヨシノ)は比較的整備されているが、体育館周辺は大きな常緑樹(カイヅカイブキ、シュロなど)のために、薄暗い状態となっている。特に体育館北側の明るい雰囲気への転換が重要な課題である。



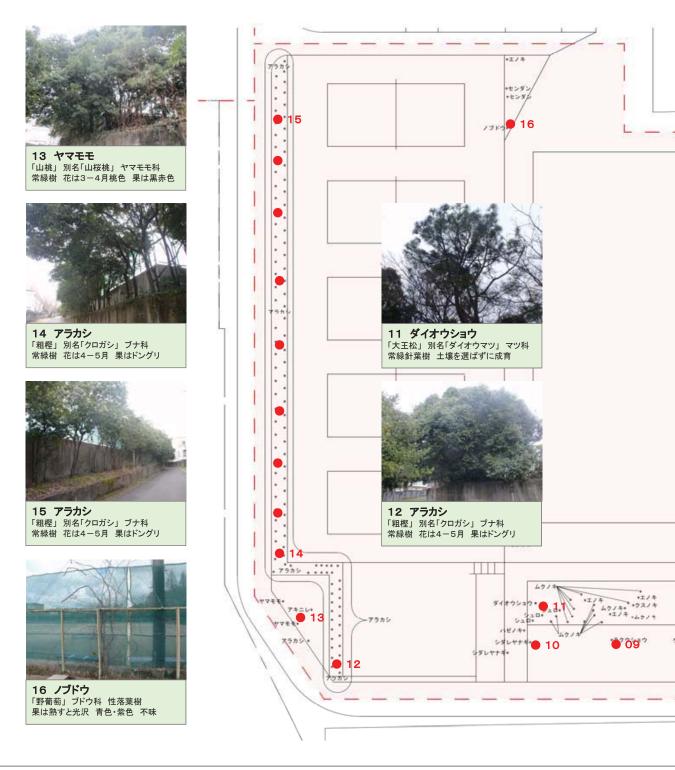


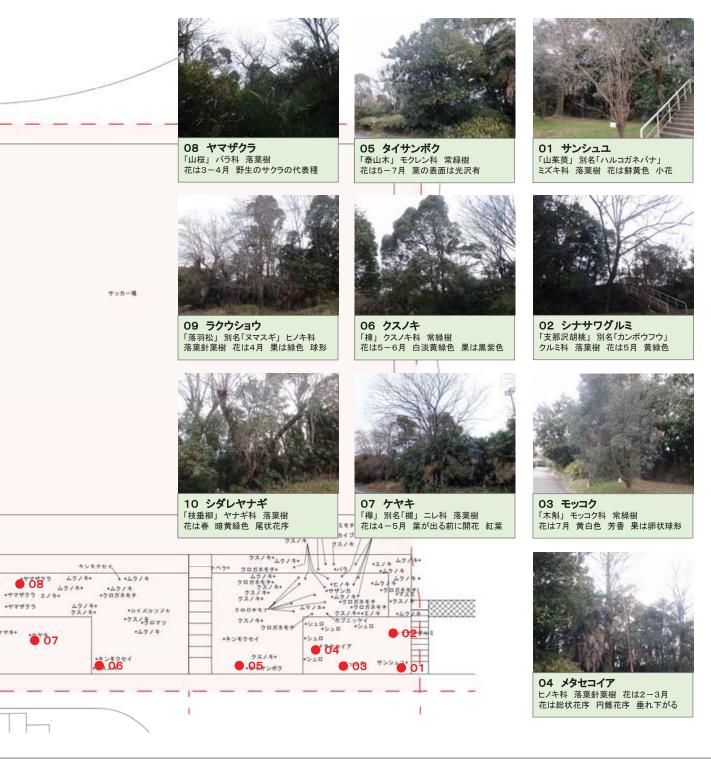
## 緑地の現状と課題(L2ブロック)

# L2ブロック

#### 緑の現状と課題

本部ブロック北側のアラカシ並木は安定している。西側一帯は、里山的な雰囲気はあるものの、踏み入るのも難しい雑然と した状態である。ヤマモモ、ダイオウショウ、ラクウショウ、タイサンボクなどの有用樹を活かした整備が課題である。





京都教育大学

緑空間を活用した教育研究環境と地域貢献・社会貢献















